

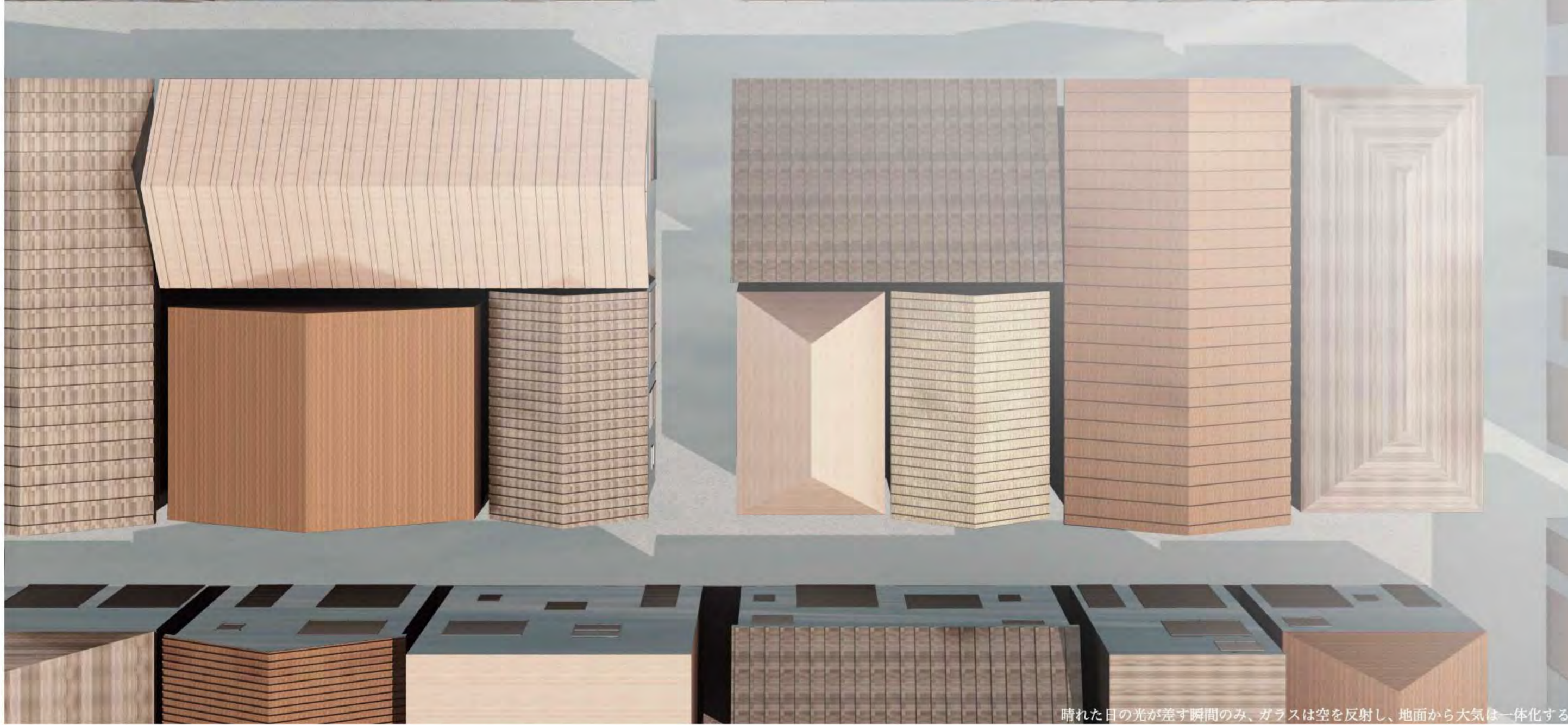
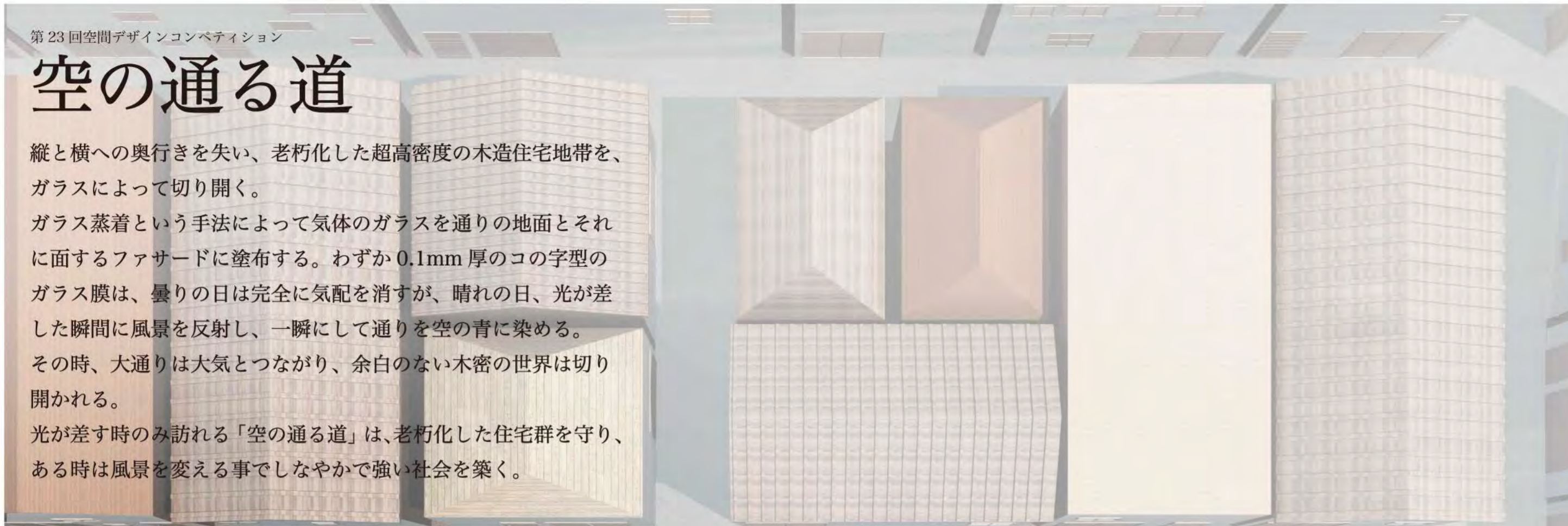
# 空の通る道

縦と横への奥行きを失い、老朽化した超高密度の木造住宅地帯を、ガラスによって切り開く。

ガラス蒸着という手法によって気体のガラスを通りの地面とそれに面するファサードに塗布する。わずか0.1mm厚のコの字型のガラス膜は、曇りの日は完全に気配を消すが、晴れの日、光が差した瞬間に風景を反射し、一瞬にして通りを空の青に染める。

その時、大通りは大気とつながり、余白のない木密の世界は切り開かれる。

光が差す時のみ訪れる「空の通る道」は、老朽化した住宅群を守り、ある時は風景を変える事でしなやかで強い社会を築く。



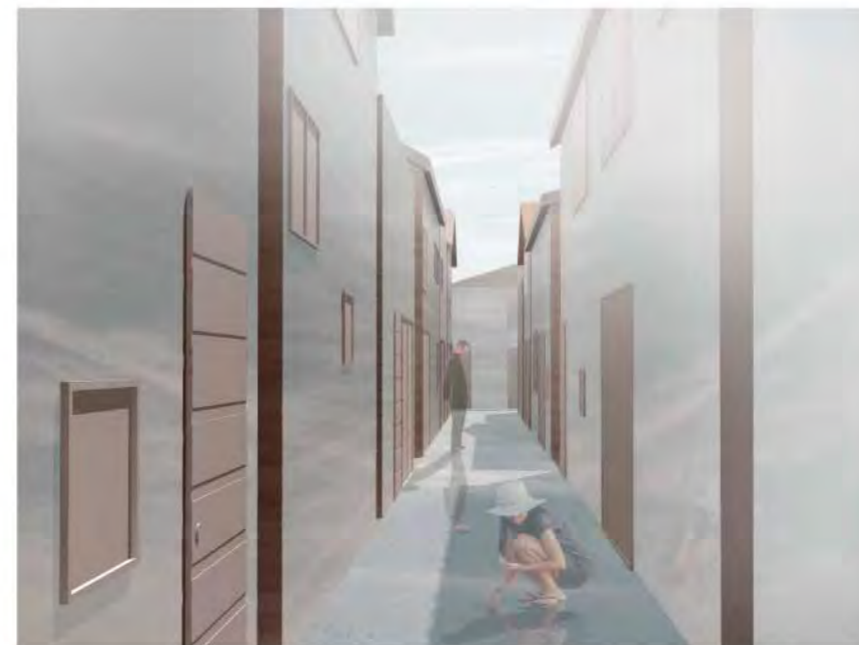
晴れた日の光が差す瞬間のみ、ガラスは空を反射し、地面から大気は一体化する。

## ■ 光がある時のみ訪れる「空の通る道」は、大気と繋がる

0.1mmの薄いガラス膜は、曇りの日には気配を消すが、晴れた日に光が差すことによって、風景はガラスを反射し、通りは空に染まる。その瞬間大地と大気はつながり、奥行きのない世界を一気に切り開く。住宅に囲まれた暗い道は明るくなり、犯罪やボイ捨てなど、街を汚す要素も軽減する効果もある。



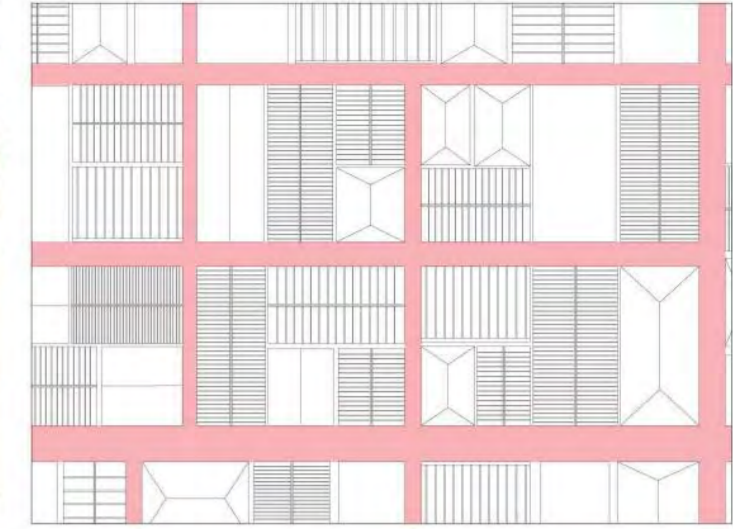
曇りの日の木密住宅地帯の通り。住宅に隙間なく囲まれた通りは、縦と横への奥行きを失い、空間に余白をなくす。また光が通らなくなる事で、暗くなる。



晴れの日、通りとそれに面する立面に付着した薄いガラス膜が光を反射し、空と繋がる事で、景色を切り開く。明るくなるその通りは、盗難やボイ捨てなどの問題も軽減する。

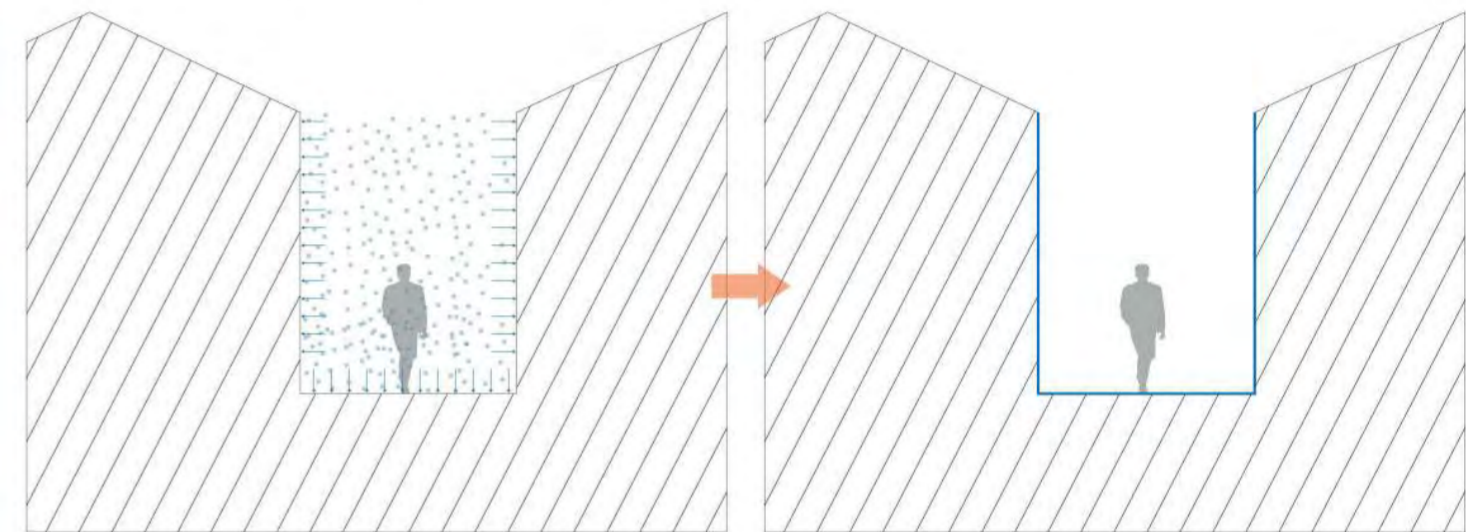
## ■ 設定場所：奥行きを失った木密の住宅地帯

対象敷地は、東京の木造密集地帯である。超高密度に並んだ隙間のない住宅群は、大地と空の奥行きを失い、ゆとりを無くした。加えて老朽化が進む木造の壁は災害時の火移りの可能性や暗さによる盗難事件の多さなどが危惧されている。



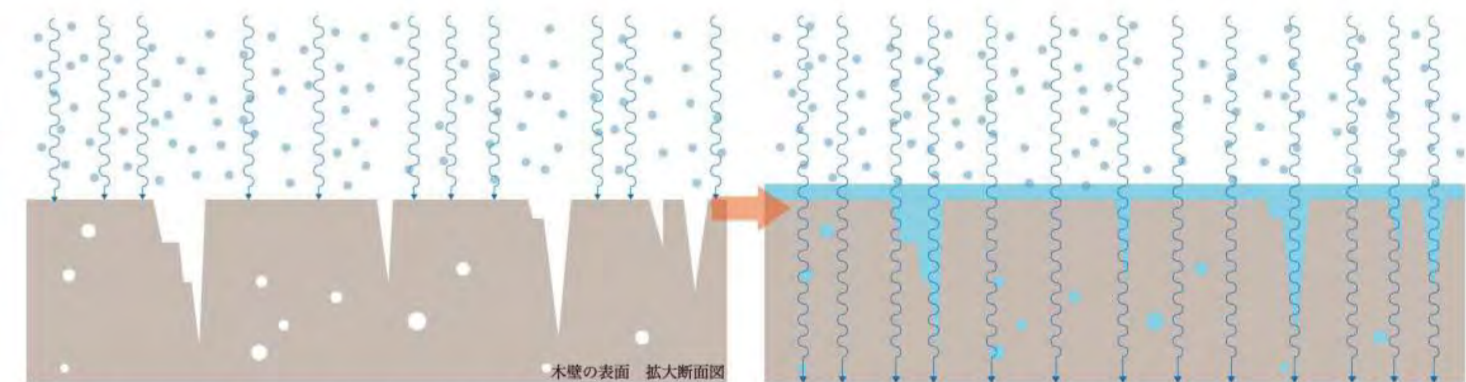
## ■ ガラス蒸着によって、通りにガラスの薄膜を張る

ガラス蒸着と言われる手法で、気体になったガラスを通りの地面とそれに面するファサードにコーティングする。気体状のガラスはやがて、常温で固化し、0.1mのガラス膜が通りをコの字型に覆う。



## ■ 素材に染み込むガラスの気体は、木壁の老朽化を防ぐ

気体のガラスによる蒸着によって、ガラスは木壁に浸透するように付着する。これによって素材に生まれた亀裂、気泡を埋め、木壁を隙間なくコーティングする事によって空気の侵入をなくし、木壁の老朽化を防ぐ。

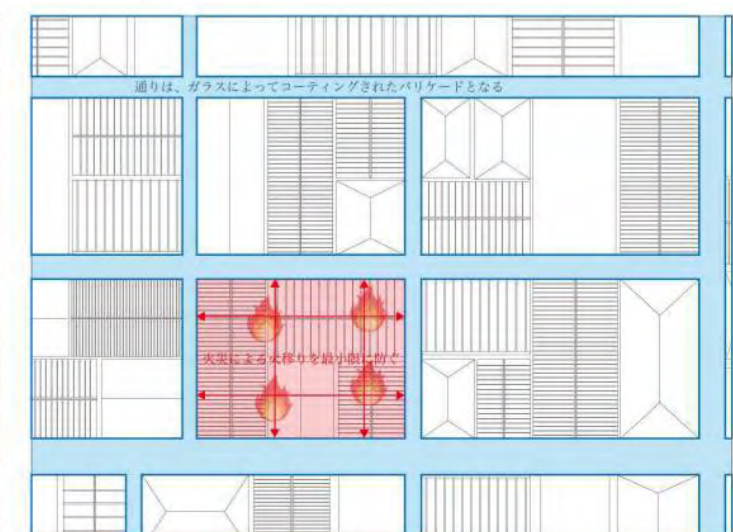


老朽化し始めた木壁の断面は、空気に触れる事で乾燥していき、表面に亀裂や見えない所に気泡ができたりする。これが原因となり、徐々に隙間が増え、老朽化を促進していく原因となる。

蒸着ガラスによるコーティングは単なるガラスの接着とは違い、気体によって塗布するため素材の表面だけでなく染み込むようにその奥へと侵入していく。気体状のガラスは木材の隙間を埋め、密度をあげる事によって老朽化を防ぐ。

## ■ 0.1mmが作るガラスのバリエード

木造密集地の中で大きめの通りとそれに面するファサードをコの字型に覆う僅か厚さ0.1mmのガラスの薄膜は、街区ごとに住宅群を囲い込み、ガラスのバリエードとして災害時の過度な火移りを阻止し、最小限に抑える。



通りは、ガラスによってコーティングされたバリエードとなる

火災による木壁の劣化を防止